

# 現代首里方言訳『沖縄対話』(7)

## —「第七章 雑話之部」—

仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・  
渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子・林京子

### Comparison of Meiji Era and Present-Day Shuri Dialect: A Research Note on “*Okinawa Taiwa*(vol.7) ‘Chapter 7 Miscellaneous’”

Jo NAKAHARA, Masako NAKAZATO,  
Tsuneshige ARAKAKI, Tomomasa KUNIYOSHI,  
Katsuyo TONAKI, Mieko YAMADA,  
Yoshiko OMICHI, Kyoko HAYASHI

The purpose of this paper is to make it clear the differences between the Ryukyuan language in the diachronic document “*Okinawa Taiwa*(vol.7)‘ chapter 7 Miscellaneous’” and modern Shuri dialect. In this study, we translated the “Japanese” written in “*Okinawa Taiwa*” to modern Shuri dialect. The variations which were made by each speakers were written in the remarks.

We also made diachronic study to compare this modern Shuri dialect material and the Shuri dialect of “*Okinawa Taiwa*” written in the Meiji Era. As a result, we confirmed that there were some differences between them in vocabulary and grammar. One of these differences is the Okinawan language particle "DU". According to the grammar rules of Okinawan language, it was necessary to use "DU" to emphasize text and to make the last word of the sentence a different form. In this paper, we will classify emphasized sentences using "DU" with examples.

In addition, we mentioned the transient change of the particle "syaai" of Okinawan language meaning the Japanese particle "de".

## はじめに

本稿は仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉(2012)、仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉(2013)、仲原・仲里・新垣・国吉(2014)、仲原・仲里・新垣・國吉・渡名喜・山田・大道(2015)、仲原・仲里・新垣・国吉・渡名喜・山田・大道(2016)、仲原・仲里・新垣・国吉・渡名喜・山田・大道・林(2017)(以下、仲原他2012、仲原他2013、仲原他2014、仲原他2015、仲原他2016、仲原他2017と称する)の続編であり、明治13(1880)年発行の『沖縄対話』に記載された琉球語と現代首里方言の比較のための基礎的研究である<sup>(1)</sup>。本稿では「第七章 雑話之部<sup>(2)</sup>」を対象としたものであり、我々が行っている研究会<sup>(3)</sup>にて得られた成果である

本研究の目的は、現代首里方言の通時的な言語資料である『沖縄対話』と現代首里方言との差異を明らかにすることである。本研究により、首里方言の重要な部分、約140年もの間変わらないのはどのような部分であり、一方で変容してしまった箇所はどのような箇所であるのか、すべてとは言えなくとも、いくつかの場面に応じた言語資料のなかから垣間見ることが可能である。このような研究を積み重ねることで、より精密な通時的な研究が可能になるだろう。

これまで、仲原他(2012～2017)でも述べてきたように、『沖縄対話』の本文に付された「琉球語」は、首里方言のなかでも「ウドウントウンチ<sup>(4)</sup>」と呼ばれる「貴族語<sup>(5)</sup>」にあたる家柄の人々のことばである。しかし、現在はこのことばの元になった琉球国の身分制度そのものが消滅していること、その影響が残っていた戦前までに言語形成期を迎えた貴族語を話す人々がかなり少なくなったことなどから、十分な調査ができない状況にある。よって本稿では、首里方言のうち、旧士族階級(サムレーなどと称する階級)のことばを中心とした翻訳をおこなった。

現代首里方言訳を行う手順は以下の通りである。まず、『沖縄対話』の「日本語」の「標準語」の部分を読み上げ、続いて明治期の首里方言を読み上げる。こうすることで、『沖縄対話』の「本文」の「日本語」のうち、意味の取りにくいところも「明治期の琉球語」により、日本語文の内容を間違わずに把握することができた。その後、明治期の「琉球語」と「現代首里方言」との違いに

ついて議論するが、手始めに仲原が研究会の参加メンバーのうち、話者になる方々<sup>(6)</sup>から聞き取りを行い、そこで得られた対訳をもとにメンバーの生まれた年代や首里のなかの生育地域により、発音や表現の違いがみられないかどうかを皆で議論する。その議論をまとめて現代の首里方言として使用できるものを以下の表で「現代首里方言」として示した。なお、話者により対訳に差がみられる場合は「備考」欄に注記した。左側には、『沖縄対話』の「本文」を現代日本語の表記法に改めたものを比較資料として提示した（詳しくは「凡例」を参照）。

なお、本稿の「底本」は『琉球語便覧』に収載された「沖縄対話」である。その主たる理由は『琉球語便覧』に『沖縄対話』編纂の目的からいふと日本語が主で琉球語は従であつたから、當時は琉球語の假名遣ひには餘り注意が拂はれなかつたが、『琉球語便覧』出版の目的からいふと、むしろ琉球語が主で日本語が従になつてゐるから、こゝでは琉球語の假名遣<sup>ママ</sup>が一入重要になつて來る譯である。ところが琉球語の音韻には假名では到底書きあらはせないのがあるから、假名の上に●點などを附して之を書きあらはす約束を設けなければならないやうになつた。それでもなほ盡せないところがあるので、琉球出身の文學士にして琉球研究者なる伊波普猷氏に乞うて別に之を羅馬字<sup>ローマナイズ</sup>で寫して貰つたから比較的正確に寫されてゐると思ふ」（糖業研究会出版部 1916 : 1-2）と述べられ、本文の横にローマ字表記が施されているためである。このローマ字によって読むことができた箇所が何カ所もあつた。

## 凡例

1. 「底本」の『琉球語便覧』の本文（和文）、本文（片仮名）も表に取り入れ、明治期の首里方言と現在（平成）の首里方言を対照できるようにした。
2. 『琉球語便覧』本文の和文表記は漢字カタカナ交じり文で書かれており、表記も「歴史的仮名遣い」「旧字体」であるが、本稿では読みやすさを考慮し「現代仮名遣い」「新字体」に改め、「漢字カタカナ交じり文」を「漢字ひらがな交じり文」に改めた。このほか、本文の表記に際し、漢字に振られたカタカナ表記のルビも同様に「ひらがな」にし、漢字の後に（ ）で示した。また、踊り字は本字に置き換えた。
3. 『琉球語便覧』の「標準語」の「本文」に併記された「琉球語」は「カタカナ表記」であり、左記に引用したように補助記号として「・」（圏点）が付されている。しかし、圏点は非常に小さく見づらく、読み手が読み誤りやすい。さらに圏点を打ち忘れた箇所もいくつかみられる。本稿では圏点を採用せず、簡易音韻表記として音韻的なカタカナ表記で記述した（「テ」＝「ティ」、「デ」＝「ディ」、「ト」＝「トゥ」、「ド」＝「ドウ」、「ヒ」＝「フィ」、「ヘ」＝「フェ」、「ホ」＝「フォ」、「ス」＝「スイ」、「ヅ」＝「ズイ」、「ツ」＝「ツイ」、「イ」＝「イイ」、「ウ」＝「ウウ」と表記〔音価は『琉球語便覧』のローマ字を参考にした〕。なお、長母音は「ー」で表記し、『沖縄対話』のカタカナ表記「子」は「ネ」に改めた。
4. 現代首里方言の記述は、広く一般に利用してもらえるように音声的仮名表記にした。カタカナ表記は基本的には西岡・仲原（2006[2000]：192-193）の表記を採用したが、首里方言には特殊な発音があるため、以下のようにカタカナを組み合わせる（ただし、ア行の前の「ッ」や語中の「イ」については簡略化のため省略する）。

「ツワ」「ツヤ」「ツン」「ツウイ」「ツウエ」「ウウ」「イイ」「ン」「イエ」  
/?wa/ /?ja/ /?N/ /?wi/ /?we/ /'u/ /'i/ /'N/ /'je/

5. 会話文は、1 回の話者の発話を 1 枠に入れた。会話文の区別については『沖縄対話』を参照した。『沖縄対話』では話者を○と○○で区別しているが、いくつか適合しない部分もあった。本稿では、同一人物が続けて発したとみられるセリフは同じ枠内に入れた。なお、会話文には回ごとに通し番号 (No) を付した。

■第七章 雑話之部 第一回

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖縄語）
1	p. 93	第百五十二国立銀行（こくりつぎんこう）へは是カラ参りましたら宜しふござりますか。	ヒヤク グジュニー ククリツジン コーンカイエー クマカラ ンジャ ラー ユタシャガ アヤビーラ。
2	p. 93	左様でござります。其の前の辻から左へ御越しなされませ。	アン デービル。ウヌ メーヌ シュージカラ フィジャイムティンカイイ イメンシエービリ。
3	p. 93	是から何丁程ござりましょう。	クリカラ ナンチョーヌ シャクガ アヤビーラ。
4	p. 93	もう直ぐ其処（そこ）でありますが二三丁位もござりましょう。	ナー スィグ ンマドゥ ヤヤビー スィガ ニサンチョーヌ シャクドゥ アラハズィ デービル。
5	p. 93	為替方（かわせかた）も其の辺でござりますか。	カワシカタン ウヌ フィンガ ヤヤビーラ。
6	p. 93	否え。為替方は此を真直に御出なされませ。	アヤビラン。カワシカター クリカラ マットーバ イメンシエービリ。
7	p. 94	何か目印（めじるし）がござりますか。	ヌーガナ シルビヌ アイガ シャビーラ。
8	p. 94	はい。銀行も為替方も両方共旗が樹ておりますで直に分ります。	ウー。ジンコーン カワシカタ ン リョーホートゥム ハタヌ タッチョーヤビークトゥ スィグ ワカヤビーン。
9	p. 94	御迷惑（ごめいわく）ながら少し御案内（あんない）下（くだ）さること <sup>(7)</sup> は出来（でき）ませぬか。	グブリーヤイエー シャビーヌィガ イチュター ウソーイミショーチ イメンシエーヌ ナイエー シャビラニ。
10	p. 94	御易（おやすい）こととござります。御案内致しましょう。	ズイーブン ナイイドゥ シャビール。ウンツイケーッシ イチャビラ。
11	p. 94	貴方は久敷（ひさしく）此処（ここ）へ御出の御様子でもう能く御なれでござりましょう。	ウンジョー エーヌ アティ クマンカイエー イメンショーチョール グトーヤビーヌィガ ナー ユー ウナイイミショーチョーラ ハズィ デービル。
12	p. 94	はい。言葉などは少し分る様になりました。	ウー。クトゥバンデーヤ ウフィナーヤ ワカユルグトーヤビーン。
13	p. 94	貴方は何時（いつ）御越になりましたか。	ウンジョー イツイ イメンシエービタガ。
14	p. 94	一昨日の貫効丸で参りました。	ウウッティーヌ クワンコーマルカラ チャービタン。
15	p. 95	何処（どこ）に御宿（おとまり）でござりますか。	マーナカイ ウヤドーミショーチョーヤビーガ。

■第七章 雑話之部 第一回

No	現代首里方言	備考欄
1	ヒャクゴジュニー コクリツギンコーン カイエー クマカラ * <u>ツンジャラー</u> ユタサガ アイビーラ。	*80代～70代は「ンジン ユタサイビーガ ヤー」も使用する。
2	* <u>アンヤイビーン</u> 。ウヌ メーヌ スー ジカラ フィジヤイムティンカイ ** <u>ツメンシエービリ</u> 。	*強調した「アンドウ ヤイビール」でも よい。また、年長者から年下に対して応答 する際は「ユタサイビーン」(いいです。) でもよい。 **丁寧に言うときは「イメンシエービリ」 でもよい。以下、同じ。
3	クリカラ ナンチャー* <u>ビケーン</u> アイ ビーガ。	*国吉氏は「ピカージ」でも良いとする。
4	ナー、シグ ッンマドゥ ヤイビーシガ、 ニサンチャーヌ サクドゥ アル ハジ ヤイビーン。	
5	カワセカタン ウヌフィンガ ヤイビー ラ。	
6	アイピラン。カワセカター クリカラ マツトバ * <u>ツメンシエービリ</u> 。	*「メンシエービリ」とも発音する。80代 後半は「ウエンシエービリ」と発音する。
7	ヌーガナ シルシヌ アイビーミ。	
8	ウー。ギンコーン カワセカタン * <u>タトウクル</u> ** <u>トゥン</u> ハタヌ タッ チャーイビークトゥ シグ ワカイビーン。	*70代の話者は「リョーホー」でもよいと する。 *林氏は「ンカイ」(～に)が良いとする。
9	グブリーヤイエーサビーシガ、イチューター ソーティ ッンジ* <u>クイミシエーピラン</u> <u>ガヤー</u> 。	*「クイミシエーピラニ」でもよい。
10	ウー、ユタサイビーン。* <u>ウンチケーサ</u> <u>ピラ</u> 。	*より丁寧にいうときは「ウンチケーッ ウサギヤピラ」という。
11	ウンジョー * <u>ナゲー</u> クマンカイエー メンソーチョール <u>グトーイビーシガ</u> 、 ナー、ユー ** <u>ナリミソーチョール</u> ハジ ヤイビーン。	*国吉氏は「ナゲーサ」でも可だと言う。 **大道氏は「ナリティウウミシエール」が 良いとする。
12	ウー。クトゥバンデーヤ ウフィナーヤ ワカティチャーイビーン。	
13	ウンジョー イチ メンシエービタガ。	
14	ウツティーヌ カンコーマルカラ チャーピタン。	
15	マー* <u>ンカイ</u> ** <u>トウマトーミシエーガ</u> 。	*大道氏は「ンカイ」も「ナカイ」も使用 するという。 **大道氏は「ウヤドー ソーミシエービ ーガ」が良いとする。

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
16	p. 95	西村の（かねた <sup>(8)</sup> ）に宿りております。貴方の御寓所（ごぐうしよ）は何と申す所でございます。	ニシムラヌ カニタナカイ ヤドー ショーヤビーン。ウンジュヌ ウヤドーヌーンディ イユットウクルガ ヤヤビーラ。
17	p. 95	私は西村の十八番地元油座（あんだざ）にあります。	ワンネー ニシムラヌ ジューハチバンチ アンダザーナカイ ウウヤビーン。
18	p. 95	夫れでは県庁の御近辺でございますか。	アンシエー キンチョーヌ グチンピンガ ヤヤビーラ。
19	p. 95	左様でございます。県庁の直ぐ傍でございますから御序の折はちと御話に御越し下されませ。	アン デービル。キンチョーヌ スイグ スバ ヤヤビークトウ ウツイーディヌ バシヨウ イチユター ウファナシニ イメンシエショーチクイ ミシエービリ。
20	p. 95	難有 <sup>(9)</sup> ございます。何れ其内に伺いましょう。	ニフェーデービル。チャーシン ウヌ ウチニ ユシリヤピラ。
21	p. 95	為替方は是でござりますがもう此迄で宜敷うござりますか。	カワシカター クマ ヤヤビスィガ、ナー クママディッシ ヌタシヤラ ハズイ デービル。
22	p. 95 ～96	銀行はどっちでござりましょう。	ジンコーヤ マーガ ヤヤビーラ。
23	p. 96	銀行は此路を一丁計御出なされまして御尋なされたら直に分ります。	ジンコーヤ クヌ ミチカラ イツチョーバカーイイ イメンショーチウタンニミシエードウンサー スイグワカヤビーン。
24	p. 96	左様でございますか。夫れではもう迷（まよう）もありますまい。是れは誠に難有ございました。	アンシーガ シャビーラ。アンシエーナー マチゲーヤ サン ハズイデービル。クレー ドウットウ ニフェー デービル。
25	p. 96	左様なら何れ二三日の内御遊に御出下されませ。	アンシエー チャーシン ニサンニチヌ ウチナカイ アスィビーガ イメンシエービリ。

## ■第七章 雑話之部 第二回

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
1	p. 96	貴方は何処（どこ）か御（お）悪うござりますか。	ウンジョー ヌーン グフクウエーガ ウヤミシエービーラ。
2	p. 96	はい。四五日前少し風を引きましたが熱（ねつ）がござりましてこまっております。	ウー。シグニチメーカラ ウフェーゲーチ ヤヤビスィガ、ニツイヌアティ スックエーチョーヤビーサー。

No	現代首里方言	備考欄
16	ニシムラヌ カニタンカイ トウマトー イビーン。ウンジュヌ ウヤドー *ヌー ンディ ッユツトウクルガ ヤイビーラ。	* 丁寧に発音した「ヌーディール」 や「ヌーディール」でもよい。
17	ワンネー ニシムラヌ ジューハチバン チ アンダザーンカイ ウウイビーン。	
18	アンシェー、ケンチョーヌ フィンドウ ヤイビールイ。	
19	アンヤイビーン。ケンチョーヌ シグ スバ ヤイビークトウ、チーディヌ アルパソー イチュター ウフアナシ シーガ メンシェービリ。	
20	ニフェーデービル。チャーシン クヌ ウチニ *ユシリヤビラ。	* 国吉氏は「ユシリヤビラ」は古風な言い 方で現代では「ユシリヤビース」とも言う とのことである。
21	カワセカター クマヤイビーシガ、ナー、 クママディッシ ユタサイビーガヤー。	
22	ギンコーヤ マーナトーイビーガ。	
23	ギンコーヤ クヌ ミチカラ イッ チョービケーン メンソーソーチ、ウタ ジニシミシェーラー シグ ワカイビー ン。	
24	アンドウ *ヤミシエールイ。 アンシェーナー、マチゲール クトー ネーヤビランハジ ヤイビーン。 イッパー ニフェーデービル。	* 渡名喜氏は「ヤイビーンナー」が良いと する。
25	*アンサビーレー、ニサンニチヌ ウチ **ナカイ ユタサレー アシビーガ メンシェービリ。	* 大道氏は「アンシェー ユタサイビー ラー」が良いとする。 **「ンカイ」でも良い。

## ■第七章 雑話之部 第二回

No	現代首里方言	備考欄
1	ウンジョー *マヌー ブククチ ヤミ シェービーガヤー。	* 国吉氏は「マヌー」でも「マーンディヌ」 でも良いという。
2	ウー。シグニチメーカラ *イフエー **ハナフィチ ヤイビーシガ、 ニチヌ アティ スックエー チョーイ ビーツサー。	* 「イフエー」は「ウフエー」でも良い。国吉 氏、山田氏、渡名喜氏は「ウフエー」を主に 使用する。 ** 「ハナフィチ」を大道氏と国吉氏は「ハナ シチ」と言う。なお、国吉氏は「ハナシチ カギンナディ ニチグワーフワーッシ」 が良いという。林氏は、「アンパーヌ ワッサ イビーン マタ」のように「具合が悪いです。 (また)」が良いとする。

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
3	p. 96	御頭痛（ずつう）も致しますか。	ウンチョーピン ウヤミシエーガ シャビーラ。
4	p. 96 ～ 97	昨日までは烈敷（はげし）く頭痛が致しましたが今日は左迄（さまで）のこともござりませぬ。	チヌーマデー チューク カラズイヌ ヤナビータスイガ チューヤ アンマ デー アヤビラン。
5	p. 97	夫れは誠に御気毒なことでござりますが医者には御見せなされましたか。	ウレー ドウットウ ウチヌドゥクナ クトー ヤヤビースィガ イシャニン ウミーシエーガ シャビタラ。
6	p. 97	はい。度々（たびたび）診察（しんさつ）をして貴（もら）いました。	ウー。イッケーヌン ミーヤビタサー。
7	p. 97	薬は御上りになりましたか。	クスイェー ウシャガイミシエーガ シャビタラ。
8	p. 97	初めより服薬致しております。	ハジミカラ クスイイ ヌドーヤビ ーン。
9	p. 97	漢法（かんぼう）の煎薬（せんじぐすり）でござりますか。	カンポーヌ シンヤクガ ヤヤビーラ。
10	p. 97	否え。以前（いぜん）は漢法医に掛っておりましたが草の根本の皮杯を煎じ出したばかりの薬では一向（いっこう）ききませぬ様にありましたから近頃は西洋家（せいしようか）に頼（たの）みます。	アヤビラン。メーヤ カンボーイ カカトーヤビータスイガ、クサヌ フィジ キーヌ カーンデー シジテール シャクヌ クスイイ シャーイェー ムットウ シルシエー ミーラングト ーヤビータクトウ クヌウチエ ーランボーイ カカトーヤビーン。
11	p. 97 ～ 98	御尤でござります。誠に妙（みょう）なもので今では製薬（せいやく）でないと ききそうもない様に思われます。	グムットウン デービル。ドウットウ フィルマシームン。ナマドウンヤレ ーシーヤク アランドウンアレー シル シエーミーランンディ ウマーリヤ ビーン。
12	p. 98	左様さ。昔しはよくあれで病気が直ったものでござります。	アンヤヤビーサ。ンカシエー ユ ーアリシャーイイ ビョーチヌノー ヤビータスイガヤ。
13	p. 98	御尊父（ごそんぶ）様は悪疫（あくえき）に御感（おかん）じなされたと聞きましたが如何（い）かがの御容体（ごようたい）でござりまする。	ターリーヤ イイチリー ウカカミ ショーチョンディチ チチャビ タスイガ チャール グムヨーガ ヤ ヤビーラ。
14	p. 98	追々と快方（こころよきかた）でござりまする。	ジンジン ユタシャル グトーヤビ ーン。

No	現代首里方言	備考欄
3	* <u>チブル</u> ** <u>ヤミシエービーミ</u> 。	* 強調した「チブルヌドウ ヤミシエールイ」でも良い。なお、大道氏や林氏は「チブル」と発音する。 ** 国吉氏は「ヤミーガ サビーラ」も使用できるとする。
4	チヌーマデー * <u>チュージューク</u> ヤドーイビータシガ、 <u>チューヤ</u> ** <u>アンスカ</u> アイビラン。	* 山田氏や西里氏は「チューク」も可とする。 ** 国吉氏は「アンマデー」でも「サフドー」でも良いとする。
5	ウレー イッパー * <u>チヌドウクナ</u> クトゥ ヤイビーシガ、 <u>イサンカイ</u> ** <u>カカミシエービティ</u> 。	* 大道氏は「ウチヌドウク」が良いという。 ** 国吉氏は「カカミシエービタガヤー」、大道氏は「カカミシエーガサビタラ」が良いとする。
6	ウー。* <u>カジカジ</u> ミシヤビタン。	* 大道氏は「カジニ」が良いとする。
7	クスイエー ウサガミシエービティ。	
8	ハジミカラ * <u>クスイ</u> ヌドーイビーン。	* 大道氏は「クスイエー」（菓は）の方が良いとする。
9	カンボーヌ シンジグスイドウ ヤイビーガヤー。	
10	アイビラン。メーヤ * <u>ウチナーイサ</u> カカトーイビータシガ、クサヌフィジ キーヌカーンデー シジテールクスイ サーネー ムサットゥ ノーイ ルグトー ** <u>ネー</u> (イ) ビランタクトゥ、ナマー *** <u>イサ</u> カカトーイビーン。	* 林氏と西里氏は「カンボーイ」が良いとする。 ** (イ) は省略可能を示す。以下、同じ。 *** 大道氏は「ランボーイ」が良いとする。
11	* <u>グムットゥン</u> ヤイビーン。イッパー フィルマシー ムン ヤイビーシガ、ナマドゥンヤレー イサグスイ アラドゥンアレー ノーランディ ウマーリヤビーン。	* 渡名喜氏と山田氏は「グムットゥム」が良いという。また、渡名喜氏は「イミシエールトゥーイ」でも良いとする。
12	アンヤイビーサ。ンカシエー ユー アリサーニ * <u>ヤンメー</u> ノーヤビタシガヤー。	* 大道氏は「ヤンメーヤ」、渡名喜氏は「ヤンメームノー」が良いとする。
13	* <u>ターリーヤ</u> フェーイヤンメー カカミソーチョーディチ チチャビタシガ、チャール ヨーシガ ヤイビーラ。	* 国吉氏は「和文」の「御尊父」に合うのは「ウヤガナシー」だとする。
14	シデーシデーニ ユタサルグトーイビーン。	

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
15	p. 98	御膳（ごぜん）は御喰が出来ますか。	ウブノー ユー ウシャガイイガ シャビーラ。
16	p. 98	未だ平常には成りませぬけれども少しづつはたべておる様でござります。	マーダ イッシュヨヌ グトー ナラ ノーヤビーヌィガ ウフィナーヤ カナル グトーヤビーン。
17	p. 98	一寸御見舞（おみまい）申上度（とう）ござりますが御支（さ）しつかえ）はござりますまいか。	イチユター ウミメー シーテーン ディ ウムトーヤビーヌィガ ウサワ イェー サーランガ アヤビーラ。
18	p. 98	少しも支えますことはござりませぬ。	ウフィン ツィケー ヤビラン。
19	p. 99	どちらへ御臥（おやすみ）でござりますか。	マーナカイ ウウエーヌィミ ショー チョーヤビーガ。
20	p. 99	部屋（へや）に寝（ね）ております。	クチャナカイ ニントーヤビーン。
21	p. 99	夫では御免を蒙りましょう。	アンシエー ウウガディチャービラ。
22	p. 99	此の縁（えん）の方から御出下され。	クヌ イーンカラ イメンシエービリ。
23	p. 99	御病気のことは存じながら是迄御見舞も申上ませず誠に御無礼致しました。	ウビョーチヌ ナフェー ウウカガ ドーヤビーヌィガ クリマディ ウミメーヌィ シャビラン。ドウツトゥ グブリー ショーヤビーサー。
24	p. 99	私こそ失礼致しております。	ワーガドウ グブリーショーヤビール。
25	p. 99	追々と御快方の御様子でござりまして先ず結構でござります。	ジンジン ウマシヌ グムヨー ヤヤ ビークトゥ、マズィ イイー ヤヤビーサー。
26	p. 99	難有ござります。一時は誠に猛烈（はげし）くありまして迎も快復は出来まいと覚悟して居りましたが稍（ようやく）命丈は免（たすか）りました。	ミフェーデービル。イチユター ドウツトゥ チューサヌ チャーシン ノー ユセー カテムンディ イチ ウミチツチャー ヤビタヌィガ ヨーヤク ヌチネー カラン グトー ヤビーン。
27	p. 99 ～ 100	左様でござりましょう。大変御疲労（おつかれ）と見えまして未だ御容貌（おみかけ）が余程悪くござります。最早（もう）御間内の御歩行位は御出来なされますか。	アン ヤタラ ハズィ デービル。ドウツトゥ ウツイカリミショー チョール グトウツシ マーダ グソーヤ ドウク ウユタシコー サーヤビラン。ナー マズィ ウゾー チカラヌ グフヨース シャコー ウナミシエーガ シャビーラ。
28	p. 100	否え。独（ひとり）で稍く起臥（ねおき）が出来る位でござります。	アヤビラン。ドウークル シャーイイ ヨーヤク ウキクリヌ ナユル アタ イイドウ ヤヤビール。

No	現代首里方言	備考欄
15	ウブノー ユー ウサガイガ サビーラ。	
16	ナーダ フィージーヌ グトー ナラ ノー アイビーシガ、ウフィナーヤ カムル グトーイビーン。	
17	イチュター ウミメーシエーヤーンディ ウムトーイビーシガ、サシチケーヤ * <u>ネー(イ) ビランガヤー</u> 。	* 国吉氏、大道氏、林氏は「ネーランガ アイビーラ」が良いという。
18	* <u>ウフィン</u> チケー ネー(イ) ビラン。	* 国吉氏は「ウフィン」(少しも)の他に「ム ル」(全く)、「ムットウ」(全然)も使用可 能だとする。
19	マーナカイ ウェーシミ ソーチョーイ ビーガ。	
20	クチャナカイ ニントーイビーン。	
21	アンシエー ウウガディ チャーピラ。	
22	クヌ イーンカラ * <u>メンシエービリ</u> 。	* 大道氏は「メンシエービレー」の方が良 いという。
23	ビョーチヌ クトー ウウガドーイビー シガ、クリマディ ウミメーン サビラ ン。イッパー グブリー ソーイビーサ。	
24	ワーガドゥ グブリーソーイビール。	
25	シデーニ * マシヌ ヨーシ ヤイビー クトゥ ** <u>マジ</u> *** <u>ヤーヤートウ</u> ナトーイビーッサー。	* 大道氏は「マシナートル」が良いとする。 ** 大道氏は「マジエー」が良いとする。 *** 国吉氏は「ヤーヤートウ」の他に「ユルッ トウ」でも良いとする。
26	ニフェーデービル。イチュター イッパー チューアタイシ ジョーイ ムル * <u>ノー</u> <u>ユルクトー ナランディ(イ)チ</u> 、 <u>ウミチッチョーイ</u> ビータシガ、ヨー ヤク ヌチネー カカラン グトーイ ビーン。	* 国吉氏は「ノーイエー サン」、山田氏は 「ノーユシエー ムチカサン」が良いとする。
27	* <u>アン ヤルハジ</u> ヤイビーン。ジコー ウクタンディ ミソーチョール グトウ ッシ マーダ ** <u>ソーヤ</u> ユタシコー ネー(イ) ビラン。アンシエー <u>マジ</u> *** <u>ウチカラ</u> **** <u>アッチミシエール</u> クトー ナミシエーガ サビーラ。	* 国吉氏は「アンドゥヤルハジ」とも言え るという。 ** 国吉氏はより現代風に「ヨースエー」(病 人に容態は)の方が良いとする。 *** 大道氏は「ヤーウチ」、林氏は「ヤーヌ ウチ」が良いとする。 **** より敬うときは「ッワーチミシエール」 でも良い。
28	アイピラン。ドゥークルサーニ * <u>ヤッ トウカットウ</u> ウキール クトゥヌ ナイル アタイドゥ ヤイビール。	* 国吉氏は「ヤットウヌ クトゥ」にして も使用可能とする。

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
29	p. 100	左様でござりますか。猶御大事に御養生なされませ。先ず今日は御暇致します。何れ又其内に伺いましょう。	アンガ ヤヤビーラ。ナマ ユーウヨージョーミシエービリ。マズイチューヤ ウイトウマ シャビラ。チャーシン マタ クヌ ウチ ユシリヤビラ。
30	p. 100	難有ござりました。斯（こう）して居りますと、誠に淋（さびし）くてなりませぬから、御間隙（おひま）の折は何卒（どうぞ）御話に御出下されませ。	ミフェーデービル。クングトウ ショーイーネー ドウットウ サビツツアヌ ナヤビランクトウ ウフィマヌ バシヨー ドーディン ウファナシニ イメンショーチ ウタビミシエービリ。

### ■第七章 雑話之部 第三回

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
1	p. 101	先夜は不慮（ふりよ）の御災難（ごさいなん）でさぞ御不自由でござりましょう。	クネーダヌ ユロー ウミンチャキラン セーナン ッワータミシヨーチ チシティ グフジュー ウヤミシエーラ ハズイ デービル。
2	p. 101	難有（ありがとう）ござります。火元（ひもと）は近し折節（おりふし）北風が烈しゅうありましたゆえ、丸焼（まるやけ）になりました。	ミフェーデービル。フィーヌ ムトーチカサイイ、イルシガマーシ ニシカズィヌ チューサヤビータクトウ、ムル ヤキショーヤビーサー。
3	p. 101	皆様御怪我（おけが）はござりませなんだか。	グスーヨー キガー サーランガ アヤビータラ。
4	p. 101	御陰で怪我は致しませなんだが、年寄（としより）や子供（こども）を連（つ）れ出すには余程困却（こんきやく）でござりました。	ウカジニ キガー ネーヤビランタ スィガ トウシュイイ ワラビン チャーन्दー ソーティ ンジーンデー ドウットウ スックエー シャビタサー。
5	p. 101	当夜も御見舞申上しましたが最早何れへか御立退跡（おたちのきあと）にて御目に掛りませなんだ。	ウヌ ユルン ウミメーニ チャービタスィガ、ナー マーンカイガ イメンショーチアラ ウウガミ ウーシャビランタサー。
6	p. 102	左様でござりましたか。火事と云う声を聞きますと最早、座敷（ざしき）の方へ火が移っておりましたから寝衣（ねまき）の俣（ま）（まま）老母や子供を連れて裏口（うらぐち）より避（にげ）ました。	アンヤミシエーガ シャビータラ。クワジンディ イュル キー チチネーナー ザーンカイ フィーヌ ツィカトーヤビータクトウ ユルチャー チョール ママトウシュイイ ウヤ ワラピンチャー ソーティ クシヌ ヤドウクチカラ フィンジヤビタン。
7	p. 102	直ぐに此処へ御避けでござりましたか。	スィグ クマンカイガ ウフィンジミシエービタラ。

No	現代首里方言	備考欄
29	アンドウ ヤイビールイ。*ナマー ユー ヨージョーシミシエービリ。マジ チュー ヤ ウィートウマ サビラ。アンサビー レー ジフィ クヌウチ ユシリヤビラ。	*国吉氏は「ナマー」「ナマ」の他に「ウヌ ッウイーニン」(更に引き続いて)とも言 えるという。
30	ニフェーデービル。カンドウ ソーイ ネー イッパー サビッサヌ ナイビラ シクトウ、ウフィマヌ パソー ドーデー ン ウファナシニ メンソーチ ウタビ ミシエービリ。	

### ■第七章 雑話之部 第三回

No	現代首里方言	備考欄
1	クネーダヌ ユロー ウミンユラン *ワジャウエー アタ(イ)ミソーチ イエーディン グフジュー ヤミシエー ル ハジ ヤイビーン。	*「ワザウエー」でも良い。以下同じ。
2	ニフェーデービル。フィーヌ ムトー チカサイ イルシガマーシ ニシカジヌ チューサイビータクトウ、ムルヤキ ソー イビーサ	
3	グスーヨー *キガー シミソーランガ アイビータラ。	*大道氏は「キガー」は使用せず、「マーン ヤマシエー」(どこも痛めては)が良いとす る。
4	ウカジニ キガー *ネー(イ)ビラン タシガ、トウスイ ワラビンチャー ** ンデー ソーティンジー***ンデー イッパー ジャーフエー サビタッサー。	*大道氏は「ネーヤビラン」が良いとする。 以下同じ。 ** 大道氏は「ンデー」は不要とする。 *** 大道氏は「ンチ」が良いとする。
5	ウヌ ユルン ウミメーニ チャービタ シガ、ナー、マーンカイガ メンソーチャ ラ カメーユーサビランタサ。	
6	アンヤミシエービティエー。クワジン デイ ツユル クイー チチーネー、ナー ザシチンカイ フィーヌ チカトーイ ビータクトウ、ユルチャー チョール ママ トウスイ ウヤ ワラビンチャー ソーティ クシヌ ヤドウグチカラ フィンギヤビタン。	
7	シグ クマンンカイガ *フィンギミ シエービタンナー。	*大道氏は「フィンギミシエービタラ」が 良いとする。

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
8	p. 102	否え。其夜は近辺の親類の所に居りまして、昨日此家を借りました。	アヤピラン。ウヌ ユロー チンピンヌ ウェーカヌ トウクルナカイ ウウティ チヌードウ クヌ ヤーカヤピタル。
9	p. 102	夫では、御宝物（ごほうもつ）類も大分焼けましたでござりましょう。	アンシエー グホームツィルイン テープン ヤキタラ ハズィ デービル。
10	p. 102	幸い、蔵（くら）が二戸前（ふたとまえ）残りましたゆえ、秘蔵物（ひぞうもつ）丈けは残りましたが、衣装家具杯は荒方焼て仕舞ました。	セーウェー クラヌ タカノー スクトーヤビータクトウ フィソーヌ ムン バカーイエー スクトーヤビータスィガ イショードーグ ヒョーグンデーヤ ウーカタ ヤキトーヤビーン。
11	p. 103	誠に珍らしき大火でござりましたが、類焼（るいしょう）は何軒（なんげん）ばかりであります。	ドウットウ フィルマシー ウークワジ ヤヤビータスィガ ルイクワー イクチネー バカーイィ ヤヤビータガヤー。
12	p. 103	今朝の話には家が二千七百四十六戸、蔵が百八十三棟とか聞きました。	チュー アサヌ ハナシエー ヤーヌ ニシンシチヒャクシジュームーチネークラヌ ヒャークハチジューミ カンディ イチ チチャピタン。
13	p. 103	死傷もありたと聞きましたが、左様でござりましょうか。	シジャイイ ドゥーヤマチャイイ ショースィン ウウンディ イチ チチャピタスィガ アンガ ヤヤビーラ。
14	p. 103	即死（そくし）が七人で怪我人は三十八九名とか申ことでござります。	シニンヌ シチニン キガニンヌ サンジューハックニンディガ ヤライユル グトーヤビーン。
15	p. 103	此様な烈しき火事は昔より一度もござりませぬ。	クヌ グトール ハジシー クワジェー ンカシカラ イチドウンネーラン ハズィ デービル。
16	p. 103	はい。天明度（てんめいど）の大火後初めてと申ことでござります。	ウー。ティンミーニンカンヌ ウークワジ アトウカラ ハジミティンディイユル グトーヤビーン。
17	p. 104	夫れは幾年ばかり前のことでござりますか。	ウレー ナンニン バカーイィ サチヌ クトウ デービルガヤー。
18	p. 104	妙なことで彼日（あのひ）が丁度百ヶ年目に当りましたそうでござります。	ミズィラシー ムン ウヌ フィーカラ チョードウ ヒャクニンミニ アタトール ヨースィ ヤビーン。

No	現代首里方言	備考欄
8	アイビラン。ウヌ ユロー チュケートウ ナイス ッウエーカヌ トウクルナカイ ウウティ チヌードウ クヌ ヤー カ イビタル。	
9	アンシェー テーシチナ ムヌンデーヤ ウーカタ ヤキタル ハジ ヤイビーン。	
10	* <u>シェーウエー</u> クラス タトゥクロー ヌクトーイビータクトウ、テーシチナ ムン ビケーノー ヌクトーイビータ シガ、イショードーグ ヒョーグンデー ヤ ウーカタ ヤキトーイビーン。	*「イイーバー」でもよい。
11	ジコー フィルマシー ウークワジ ヤ イビータシガ、* <u>ルイクワー</u> イクチネー ビケージ ** <u>ヤイビータガヤー</u> 。	*国吉氏は「フィーヌウチタットウクロー」 (火の燃え移った所は)が良いとする。 **「フィルガイビタガヤー」でもよい。
12	チュウ アサヌ ハナシェー ヤーヌ ニセンナナヒャクヨンジューロク チネー、クラヌ ヒャクハチジューサン ンニディ チチャビタン。	
13	シジャイ ドゥーヤマチャイ ソーシン ウウンディ イチ チチャビタシガ、 アンドウ ヤイビーミ。	
14	タデーマ マーソーチャルチャー * <u>ナナニン</u> ドゥーヤマチャール ッチュ ヌー サンジューハックニンンディガ ヤラ ッユル グトーイビーン。	*大道氏は「シチニン」が良いとする。
15	クングトール ウークワジェー ンカシ カラ チュケーヌン ネーラン ハジ * <u>ヤイビーン</u> 。	*この文脈のように、他と比べられないほ ど、という場合には「デービル」でもよい。
16	ウー。* <u>テンメーニンカンヌ</u> ウークワ ジ アトウカラー ハジミティンディ ッユル グトーイビーン。	*現代では使用しない年号は標準語を借用 して使用する。以下同じ。
17	ウレー ナンニンビケージ サチヌ クトウ ヤイビーガヤー。	
18	* <u>ミジラシームン</u> ウヌ フィーカラ チャードウ ヒャクニンミーニ アタ トール ヨーシ ヤイビーン。	*国吉氏と西里氏は「ミジラシークトゥ ネー」(妙なことに)でも良いとする。

19	p. 104	折々左様のこともあると見えまして。昨年の地震（じしん）も寛永（くわんえい）大地震の二百五十年回の日だと聞きましたが、災殃（わざわい）の年回杯は何卒（どうぞ）なき様に致したいものでござります。	タマネー ウヌ ヨーナ クトウン アル グトーヤビーン。クズヌ ネー ン クウンイイー ニンカンヌ ウー ネーヌ ユタル ニヒャクグジューニ ン マーイイス フィーンディ イチ チチャビタスイガ ワザウエーヌ トウシヌ ミグイインデーヤ ドー ディン ネーン アイイデーナ ムン ヤヤビーサー。
20	p. 104	御尤でござります。	グムツトウン デービル。
21	p. 104	是は御取込中（おとりこみちゅう）御邪魔を仕りました。何か相応の御用もござりますれば少しも御遠慮なく仰せ遣わされませ。	クレー ウトウイクミヌ ナカバ グブリー ナヤビタサー。ヌーン ソー ウウーシュル グューン アイドウン シュラー ウフィン グイインロー ミショーラングトウ ミショーチウタ ビミシエービリ。
22	p. 105	難有ござります。追々御願ひ申すこともありましようが何分宜敷御頼み申す。	ニフェーデービル。アトゥ ムツディ ウニゲーシュル クトウン アラ ハズィ ヤヤビーレー チャー ディン ユタシャル グトーミショー チウタビミシエービリ。

## ■第七章 雑話之部 第四回

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
1	p. 105	昨日は、毎度御使を下されまして難有うござりました。	チヌーヤ イクケーヌン ウツィケー ミショーチ ミフェーデービル。
2	p. 105	折角御待ち申上りましたが御余義なき御障の御様子で誠に残念でござりました。	シッカク ウマチショーヤビータスイ ガ カクビツィヌ ウトウイクミヌ グヨースィ ヤティ ドウツトウ チムガカイイ ヤヤビタサー。
3	p. 105	私も是非（ぜひ）参上致します積りでござりましたが折節遠方の親類が見えましてからどうも逃（はず）すことが出来ませず御無礼いたしました。	ワンニン チャーシン ユシリール カンゲー ヤヤビータスイガ ウヌバシュ トーサカラ ツウエーカ ヌチャーガ チャービタクトウ チャーン ハズィシエー ナランツシ グブリー シャビタサー。
4	p. 105 ～ 106	御無礼のことはござりますぬが相伴方（しょうばんかた）が下戸ばかりで困りました。	グブリーヤ アヤビランスイガ、ショー バヌチャーヤ ジークバカーイイ ヤティ スックエー シャビタサー。
5	p. 106	御新造様（ごしんぞうさま）は誠によく御似合（おにあい）なされましたが御齢は幾年でござりますか。	ミー ツウエー ユメー ドウツトウ イイー グフージ ウヤミシエービー スイガ ウトウシエー ウィクツィガ ウヤミシエービーラ。
6	p. 106	十五年と一月でござりますが丈（ほど）が大きいので余程長て見えます。	ジューグトウ チュツィチドウ ヤヤ ビースィガ フドゥヌ ウフィシヤヌ ドウツトウ ウイラーシャル グトー ヤビーン。

19	マルケーデー *ウヌグトール クトゥン アル グトーイビーン。クジュヌ ネーヤ クワンエイ ニンカンヌ ウー ネーヌ ユタル ニヒヤクゴジュニン マーイヌ フィンディ(イ)チ、 チチャビタシガ ワザウエーヌ ミグイ ンデーヤ ドーディン ネーングトゥ ニガトーイビーン。	* 大道氏は「ウングトール」が良いとする。
20	グムットウン ヤイビーン。	
21	クレー ウトゥイクミス ナーカ *グブリーナイビタッサー。ヌーガナカ シー スル **グトウン アイドウン シエーラー ウフィン グイインロー ミソーラングトゥ イーチキティ ウタ ビミシエービリ。	* 大道氏は「グブリーナイビタサ」が良いとする。 ** 渡名喜氏は「クトゥヌ アミシエーラー」 または「クトゥヌ アイビーネー」が良いとする。
22	ニフェーデービル。アトゥアトゥ ウニ ゲー スル クトゥン アル ハジ ヤ イビーレー ドーディン ユタサルグ トゥ ウニゲーサピラ。	

## ■第七章 雑話之部 第四回

No	現代首里方言	備考欄
1	チヌーヤ イクケーヌン ウチケーミ ソーチ ニフェーデービル。	
2	*ククルカラ ウマチソーイビータシガ、 カクビチヌ ウトゥイクミス グヨーシ ヤティ、イッペー チムガカイ ヤイビー タサ。	* 国吉氏は「ククルアティ ッシ」(期待し て)が良いとする。
3	ワンニン チャーシン ユシリアル カ ンゲー ヤイビータシガ、ウヌ ジブノー トゥーサカラ ッウエーカヌチャーガ チャービタクトウ、チャーシン ハン シエー ナランナティ グブリー サビ タサ。	
4	グブリーンデー ウムテーウウイビラン シガ、エージュエヌチャーガ ブシチ ビケンナティ スクエー *サビタッサー。	* 大道氏は「サビタサ」が良いとする。
5	ミーユメー イッペー *ウチャタイカ ナタイ ソーミシエービーシガ ウトゥ シエー イクチ **ヤミシエービーガ。	* 最初は「イイー ウシガタ」(良い風貌) としたが、「和文」の「御似合」に合わせた。 ** 山田氏と渡名喜氏は「イクチガ ナミ シエービーラ」、大道氏は「イクチガ ヤミ シエービーラ」が良いとする。
6	ジュグトゥ チュチチドゥ ヤイビー シガ、フドゥヌ マギサヌ イッペー ッウイーラーシク ミーヤビーン。	

No	頁	本文（和文）	『沖繩対話』本文（沖繩語）
7	p. 106	左様でございますか。御母様によく御肖（おに）で御奇麗でございます。	アンガ ウヤミシエービーラ。ウファ ファニ ユー ウニリミショーチ ウチュラサヤビーン。
8	p. 106	難有うござります。良嫁（よきよめ）を貰いまして仕合（しあわ）せでござりました。	ニフェー デービル。イーユミ カメーデー ディカシャビタサー。
9	p. 106	御夫婦（ごふうふ）様よく御揃（おそろ）い成されましたがさぞ御喜（よろこび）でござりましょう。	ウミトウンダ ユー ウスリーミ ショーチョーヤブースイガ チシテイ ウユルクビウヤミシエーラ ハズィ デービル。
10	p. 106 ～ 107	はい。先ず先ず是で稍く安心いたしました。	ウー。マズィ クリシエー ヨーヤク アンシン ショーヤビーン。
11	p. 107	今日は一寸御祝儀（ごしゅうぎ）までに上りましたから御暇（いとま）申し上げます。	チューヤ イチュタ グシュージ ウンヌキーガドウ ユシリトーヤビー クトウ ウイトウマ シャビラ。
12	p. 107	否や。残物（ざんぶつ）の様なもので一献（いっこん）上げますから何卒（どう）ぞ御緩（おゆるり）と成されませ。	アヤビラン。ヌクイヌ ヨーナムン シャーイー イッパイ アギヤビー クトウ、ドーディン ウユルトウミ ショーチウタビミシエービリ。
13	p. 107	難有うござります。夫れでは御祝儀の御盃（さかずき）でござりますから頂戴（ちょうだい）致しましょう。	ニフェーデービル。アンシエー グシュージヌ サカヅィチ ヤヤビー クトウ イタダチャビラ。
14	p. 107	御止（おと）めは申しましたが誠に御粗末（ごそまつ）でござります。	ユシミアギーヤ シャビタスイガ ドゥットウ スマツィナ ムン デービル。
15	p. 107	御料理（りょうり）が結構でござります。	ウリユーイエー ディキトーヤビーン。
16	p. 107	何も御口合（くちあい）はござりませぬが何卒ぞ、御遠慮なく御上（おあが）り下されませ。	ヌーン ミクチネー ウワータミ ショーラン ハズィ ヤヤブースイガ ドーディン グイインロー ミショー ラングトウ ウシヤガミショーチ ウタビミシエービリ。

No	現代首里方言	備考欄
7	アンドウ ヤミシエービールイ。アヤマーニ ユー ニチョーミソーチチュラサイビーン。	
8	ニフェーデービル。イイーユミトウメーティ ウーグトウ ヤイビーサ。	
9	ウミートウンダー ユー スリーミソーチョーイビーン。 <u>*ダテンヌ</u> ウユルクビ ヤミシエール ハジ ヤイビーン。	*「チットウ」(きつと) でもよい。
10	ウー。マジ クリッシ <u>*ヨーク</u> ユルットウ ソーイビーン。	*国吉氏は「ヤットウカットウ」が良いとする。
11	チューヤ <u>*イチユター</u> グスージウンスキーガドウ ユシリトーイビークトウ クリッシ <u>**グブリーサビラ</u> 。	*大道氏は「イットウチ」が「和文」に合うと言う。 **西里氏は「ウイトウマ サビラ」が良いという。
12	アイビラン。アル ウッサドウ ヤイビーシガ、サカジチ アギヤビークトウ、ドーディン ユルットウ ッシ <u>*イメンシエービリ</u> 。	*「ツウエンシエービリ」や「ツウエンシエービレー」でも良い。
13	ニフェーデービル。アンシエーグスージヌ ウサカジチ ヤイビークトウ、 <u>*クワッチー サビラ</u> 。	*新垣氏と国吉氏によれば、自分で用意した食事のあいさつには「イタダチャビラ」は使えるが、他人からごちそうになる場合には「クワッチーサビラ」さらに敬意を込めるときは「カミヤビラ」(頂く)のように謙譲語で表現するという。
14	ウトウミ サビタシガ、アル ウッサヌ ムンドウ ヤイビール。	
15	ウリュイーエー <u>*ウディキソーイ</u> ビーン。	*非常に丁寧な言い方。相手に敬意を込めたり、親しみを伝えたりする際の表現である。仲里氏がよく使用する表現である。
16	ヌーン ミクチネー アタイミソーラン ハジ ヤイビーシガ、ドーディン <u>*グイインロー</u> シミソーラングトウ、ウサガミシエービリ。	*国吉氏は「グイインロー」の他に「ウケーユン」でも良いとする。

## おわりに

### 1. 強調の「係り結び」の諸相

今回の「雑ノ部」に用いられた文のうち、強調の「係り結び」<sup>(10)</sup>の使用状況に着目すると、明治期と現代で同様、あるいは似た使用方法を用いる例、明治期には使用せずに現代のみで使用している例、明治期と現代で異なる係り助詞を用いる例があることがわかった。本稿では「強調」の「係り結び」に限定して述べる。

首里方言でも、他の沖縄語と同様に「係助詞ドウ du の後の文末を連体形で結」ぶ（西岡・仲原 2006[2000]:33）のが基本であるが、明治期の『沖縄対話』に記載された首里方言にも、日本古典語の「係り結び」と同様に「述語」との呼応関係が保たれない例もみられる。そこで、これらを以下のように分類して示す。

#### (1) 明治期、現代語ともに「ドウ」～「～ル」語尾になる例

例 01 「私こそ 失礼致しております。（第2回 No. 24）」

明治期：ワーガドウ グブリーショーヤビール。

現代語：ワーガドウ グブリーソーイビール。

例 02 「否え。独で稍く起臥が出来る位でござります。（第2回 No. 28）」

明治期：アヤビラン。ドウークルシャーイイ ヨーヤク ウキクリヌ  
ナユル アタイイドウ ヤヤビール。

現代語：アイビラン。ドウークルサーニ ヤットウカットウ ウキール  
クトゥヌ ナイル アタイイドウ ヤイビール。

例 03 「其夜は近辺の親類の所に居りまして、昨日此家を借りました。

（第3回 No. 8）」

明治期：ウヌ ユロー チンピンヌ ウェーカヌ トウクルナカイ  
ウウティ、チヌードウ クヌ ヤー カヤビタル。

現代語：ウヌ ユロー チュケートウナイヌ ッウェーカヌ  
トゥクルナカイ ウウティ チヌードウ クヌ ヤー  
カイビタル。

(2) 明治期には係り結びが使用されず、現代語のみに係り結びがある場例  
(明治期の文には副詞で強意の「ドゥットゥ(誠に)」が用いられている)

例 04 「御止めは、申しましたが、誠に、御粗末でござります。

(第 4 回 No. 14)」

明治期：ユシミアギーヤ シャビタスイガ、ドゥットゥ スマツィナ  
ムン デービル。

現代語：ウトウミッシ ユシミアギーンサビタシガ、アル ウッサヌ  
ムンドゥ ヤイビール。

(3) 明治期では強調の係り結びではなく、推量の係り結び「ガ」の係り  
結び(ラ推量形)だが、現代で「ドゥ」の強調文になる例

(現代でも①「ドゥ」～「ルイ」例 05 と②「ドゥ」のみ(= 結びの省略)

例 06 に下位区分できる。)

例 05 「左様でござりますか。(第 4 回 No. 7)」

明治期：アンガ ウヤミシェービーラ。

現代語：アンドゥ ヤミシェービールイ。

例 06 「漢方の煎薬でござりますか。(第 2 回 No. 9)」

明治期：カンポーヌ シンヤクガ ヤヤビーラ。

現代語：カンポーヌ シンジグスイドゥ ヤイビーガヤー。

## 2. 助詞「～で」の変化 — 「シャーイィ」から「サーニ」に—

仲原他(2012)～仲原他(2017)でもとりあげたように、明治期と現代の首里方言の言語資料を通時的に比較してみると現代には失われている単語や文法事象が明治期にはいきいきと用いられている。本稿では「シャーイィ」(～で、～では)に注目してみたい。

首里方言の助詞「シャーイィ」は、動詞「する」の「アーニ形」(複文のうち、条件節の行為の効果が続く、動作が続くなか、主節の行為が行われる際に用いられる語形が元になっている。この「～シャーイィ」は、現代首里方言ではほとんど使用されることがない。以下の例のうち、07 と 08 が現代日本語の「で」

が現代首里方言で「サーニ」(～で)になる例であり、09は現代日本語の「では」が現代首里方言で「ヤレー」(～であれば)

**例 07** 「昔はよくあれで病気が直ったもので ござります。(第2回 No. 12)」

明治期：ンカシェー ユー アリシャーイイ

ビョーチヌ ノーヤビータスィガヤー。

現代語：ンカシェー ユー アリサーニ ヤンメーン

ノーヤビタシガヤー。

**例 08** 「否え。独で稍く起臥が出来る位でござります。(第2回 No. 28)」

明治期：アヤビラン。ドゥークルシャーイイ ヨーヤク

ウキクリヌ ナユル アタイイドウ ヤヤビール。

現代語：アイビラン。ドゥークルサーニ ヤットウカットウ

ウキール クトゥヌ ナイル アタイドウ ヤイビール。

**例 09** 「草の根木の皮杯を煎じ出したばかりの薬では一向ききませぬ様にありましたから近頃は西洋家に頼みます。(第2回 No. 10)」

明治期：クサヌ フィジ キーヌ カーンデー シジテール シャクヌ

クスイイ シャーイエー ムットウ シルシェー

ミーラングトーヤビータクトウ、クヌウチェー ランボーイ

カカトーヤビーン。

現代語：クサヌ フィジ キーヌカーンデー シジテール クスイ

サーネー ムサットウ ノーイルグトーネー(イ) ビランタクトウ、

ナマー イサ カカトーイビーン。

### 3. 単語の違い

今回の調査結果のなかで、以下のように語彙そのものが異なる場合もある。ここでは「第七章 雑話之部」のなかから一つずつ示す。

明治日本語	首里方言(明治期)	首里方言(現代語)	出典
「近辺」	チンピン	フィン	第1回 No. 18
「平常」	イッショ-	フィージー	第2回 No. 16
「折々」	タマネ-	マルケーター	第3回 No. 19
「安心(している)」	アンシン(ション)	ユルットウ(ソ-	第4回 No. 11

このうち、「イッショ-」は国立国語研究所(1963)には、複合語の「?iQsoociiaa」(イッショ-チャー-)があり、「不斷着。?waazi(晴れ着)の対。」との説明があるが、単独での立項はみられない。おそらく同所の編纂時である昭和中期には、すでにやや古風な単語であったと推測される。上記に示した例以外にも語彙に関しては、いくつか時代差が指摘できるのだが、詳しくは稿を改めて報告したい。

(文責：仲原 穰)

## 註

- 『沖繩対話』は明治13(1880)年に沖縄県学務課によって編集された教科書である(上下2巻の分冊)。本永(1983:554)では本書の作成理由について「廃藩置県直後の沖縄で共通語を教えるため」と述べている。
- 「雑話之部」は、明治13年刊行の初版本『沖繩対話』では「第七章」、明治15(1882)年の改正再版では「第八章」である(改正再版本では初版本の第八章「名詞之部」が第一章に編成されたため)。本稿では「第七回」に合わせて番号を(7)とする。
- 当研究会の正式名称は「首里くとうばの集い」である(「首里」は「すい」と読む。なお、2018年より、「言葉」を「くとうば」に改めた)。当会の設立は1998年に遡る。当時、沖縄県立芸術大学教授であった加治工真市先生(現在は「名誉教授」)が「滅び行く首里方言を記録、保存しておきたい」という目的で創設し、那覇市首里当蔵町の沖縄県立芸術大学一般教育棟2階で行っていたが、加治工先生の退職に伴い、研究会は休会となった。仲原がヤマトウ(沖縄・奄美以外の都道府県)から沖縄へ戻ってきた後の2003年に当会を再開して以降、研究会の会場を那覇市首里金城町の沖縄県立芸術大学附属研究所に移し、研究会の曜日も金曜日から水曜日へと変更になった。  
当会の初期メンバーは故中村春子氏、故比嘉恒明氏、新垣恒成氏らであったが、現在は仲里政子氏、新垣恒成氏、大道好子氏、渡名喜勝代氏、山田美枝子氏、国吉朝政氏、林京子氏、知念ウシ氏、渡名喜浩子氏、西里カツ子氏、徳村政一郎氏、知花あかり氏、仲原らが集い、毎週水曜日の14時から17時まで研究会を開催している。また、ローレンス・ウェイン氏、中島由美氏、花園悟氏らも沖縄へ滞在している際は研究会へ参加している。
- 現在、ウドウトウンチのことを話す人々はほとんどいない。明治期に編まれた『沖繩対話』の話者とされる「護得久按司朝常氏」の家柄もこの「ウドウトウンチ」の系統である。また、先行研究の中松(1982)、比嘉(1987)のインフォーマントもこの家

柄の人々である。

- 『沖繩対話』の首里方言に関して、本永(1983:554)は「内容は、ごく日常的な語句と会話文をとりあげて、共通語と方言(首里の貴族語)の対訳を並記したものである」との見解を示している。
- 本稿の話者は、首里で生まれ育った仲里政子氏(1923年生)、新垣恒成氏(1932年生)、渡名喜勝代氏(1937年)、山田美枝子氏(1937年)、国吉朝政氏(1940年生)、林京子氏(1951年生)、石垣市生まれで幼い頃より家庭内では明治生まれの両親が話す首里方言を聞いて育ち、現在は首里在住である大道好子氏(1938年)である。
- 『沖繩対話』では片仮名の合略仮名(「一」と「|」の合わせ字)を用いているが、本稿ではひらがなで記述した。以下同じ。
- 「カナタ」は宿泊施設の名称(屋号)である。「田」の上「一」と右「|」に線を引いた「特殊文字」(おそらく外字)で記されている。
- 『沖繩対話』の「和文」では「ありがとう」や「ありがた(く)」に「難有」の字を用いている。本来なら「有難」であるが「ママ」とし、本文中に「ママ」とは入れない。以下、何度もこの字があてられている。
- 日本語の「係り結び」について、山口・秋本(2001:127)には「係り結びとは、文中のある部分が特定の形で提示され、それが述語と結合して文を決定的に言い定める現象」とし、さらに「協議には、その述語が特別の活用形で言い終わる場合をいう。」と説明されている。なお、同じく山口・秋本(2001:128-129)では「「は」「も」などによる題述関係」、「か」「や」「ぞ」「なむ」「何」の係りにより、結びが連体形で終止するもの、「こそ」の係りにより、結びが已然形で終止するもの」の3分類で説明している。このうち、「ぞ」「なむ」「こそ」の係りと述語が呼応するものが「焦点」や「卓立・強調」を表す係り結びであろう。

## 参考文献

- 沖繩県庁 編(1975[1980])『沖繩対話〔復刻版〕』国書刊行会、東京
- 伊豆山敦子[編]『放送録音テープによる琉球・首里方言―服部四郎博士遺品―』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東京
- 内間直仁・野原三義(2006)『沖繩語辞典―那覇方言を中心に―』研究社、東京
- 国立国語研究所[編](1963)『沖繩語辞典』大蔵省出版局、東京
- 糖業研究会出版部[編](1916)『琉球語便覧』糖業研究会出版部、沖縄
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政(2012)「現代首里方言訳『沖繩対話』(1)―「第一章 四季の部」(春・夏)―」『沖繩芸術の科学』第24号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 15-31
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政(2013)「現代首里方言訳『沖繩対話』(2)―「第一章 四季の部」(秋・冬)―」「第二章 学校の部」『沖繩芸術の科学』第25号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 113-154
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政(2014)「現代首里方言訳『沖繩対話』(3)―「第三章 農之部」『沖繩芸術の科学』第26号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 151-176
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子(2015)「現代首里方言訳『沖繩対話』(4)―「第四章 商之部」『沖繩芸術の科学』第27号 沖縄県立

- 芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 125-153
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子(2016)「現代首里方言訳『沖縄対話』(5)―「第五章 遊興之部」『沖縄芸術の科学』第28号(波照間永吉教授退任記念号)沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 125-153
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子・林京子(2017)「現代首里方言訳『沖縄対話』(6)―「第六章 旅行ノ部」『沖縄芸術の科学』第29号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 137-166
- 中松竹雄(1982)「IV 沖縄県那覇市首里」国立国語研究所[編]『方言談話資料(6)―鳥取・愛媛・宮崎・沖縄一』国立国語研究所、東京、pp. 247-349
- 西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力](2006[2000])『沖縄語の入門(CD付改訂版) 一たのしいウチナーグチ』白水社、東京
- 野原三義(1998[1977])「那覇方言の音韻」『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所、東京、pp. 713-730
- 比嘉成子(1987)「《資料紹介》首里方言自由会話 『旧正月と大晦日の思い出』」琉球方言研究クラブ30周年記念会[編]『琉球方言論叢』琉球方言論叢刊行委員会、沖縄、pp. 73-91
- 本永守靖(1983)「『沖縄対話』おきなわたいわ」『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社、沖縄 p. 554
- 山口明穂・秋本守英(2001)『日本語文法大辞典』明治書院、東京

## 付記

本稿の現代首里方言や備考欄の校正の段階で大会メンバーの西里カツ子氏(首里生まれ)に有益なコメントをいただいた。記して感謝したい。

本論文の英文タイトルと英文要旨は、大会のメンバーである知念ウシ氏に確認と修筆をお願いした。快く引き受けてくださったことを衷心より感謝申し上げます。